

ゲームムービー制作における アニメーションデータの管理と活用

2009/09/03

Links DigiWorks Inc.

痴山 紘史

発表の流れ

1. リンクス・デジワークス紹介
2. アニメーションデータの扱い
3. R&D
4. まとめ

リンクス・デジワークス紹介



- 1982年トーヨーリンクス設立
- 自社でモーションキャプチャスタジオ保有
- 映画・TV・CM・ゲームムービーなどの映像製作を幅広く手がける
- ‘KUDAN’のような自主製作作品も製作

発表の流れ

1. リンクス・デジワークス紹介
2. アニメーションデータの扱い
3. R&D
4. まとめ

扱うアニメーションデータ

過去の資産	過去のシリーズで作成してきたもの
モーションキャプチャデータ	新たに収録したモーションデータ
ゲームモーション	ゲーム中でも使用されているモーション
手つけアニメーション	社内で作成したアニメーション
編集後アニメーション	上記のデータを編集した後、再利用可能な形にまとめたもの

これらのデータをシームレスに扱う必要があった

データの標準化

全て同じフォーマットのデータに変換してしまう

- 全てのデータは標準化した骨とリグに変換
- 階層や名前の違いは変換時に吸収

▶ **メリット**

どのようなデータも一様に扱うことができる

▶ **デメリット**

変換のためのコストが発生する

標準骨構造/標準リグ

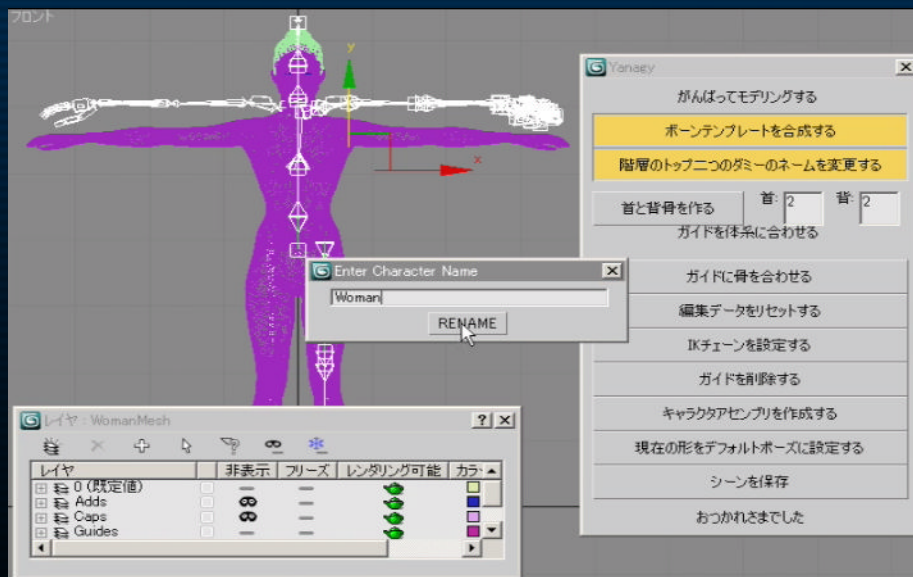
- 元はMoCapデータを扱うために作成
- 骨は人間/二足歩行動物/四足歩行動物共通
- テンプレートファイルとセットアップツール
- 誰でも、手軽に、正確にセットアップ可能

半自動セットアップ



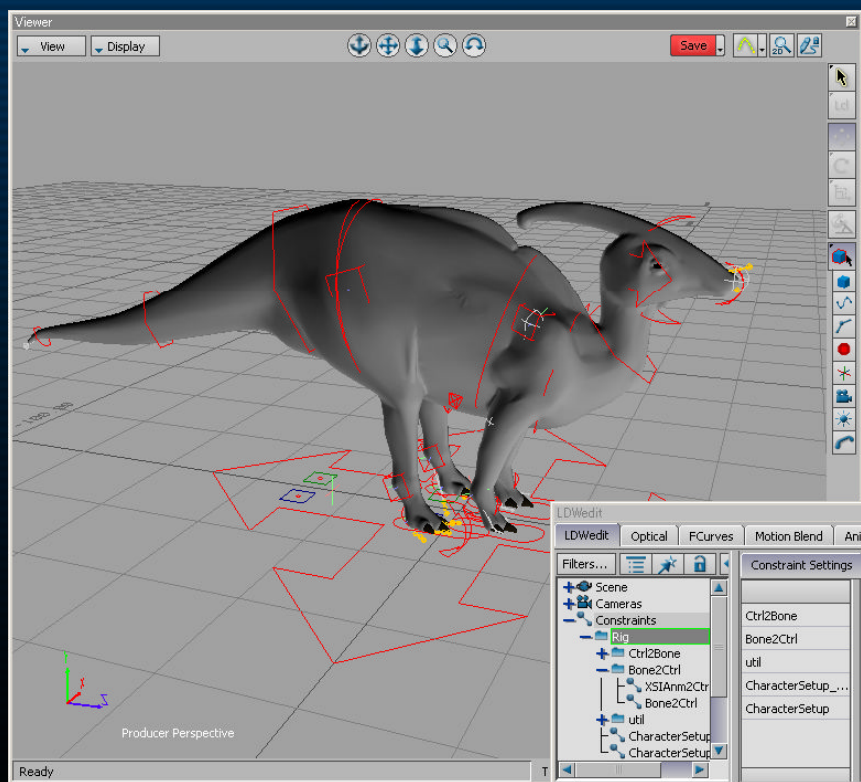
- 骨の配置はミスが起きやすい
- 軸の向き、名前付け、変なスケール
- 特にMoCapではズレは厳禁
- メニューを上からこなしていけばセットアップ完了!!

セットアップツール



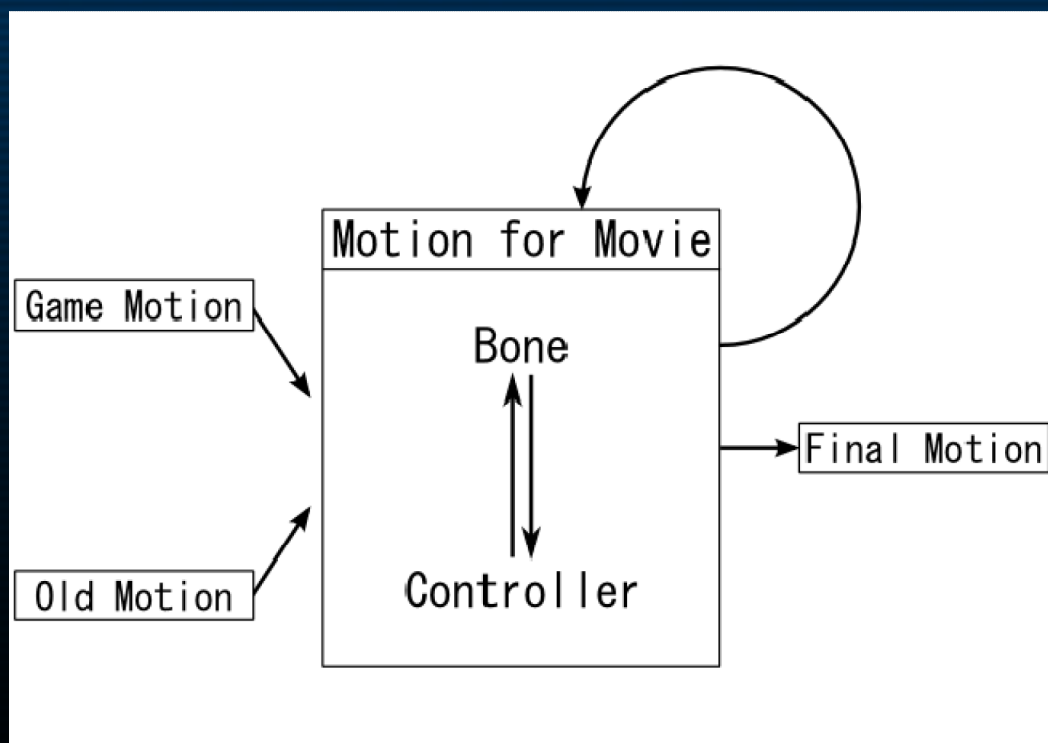
- ガイドを関節の位置に配置するだけ
- ボタン一つでガイドに合わせて骨を配置
- 尻尾などはプラグイン化
- 誰がやっても正確なセットアップができる

動物用リグ



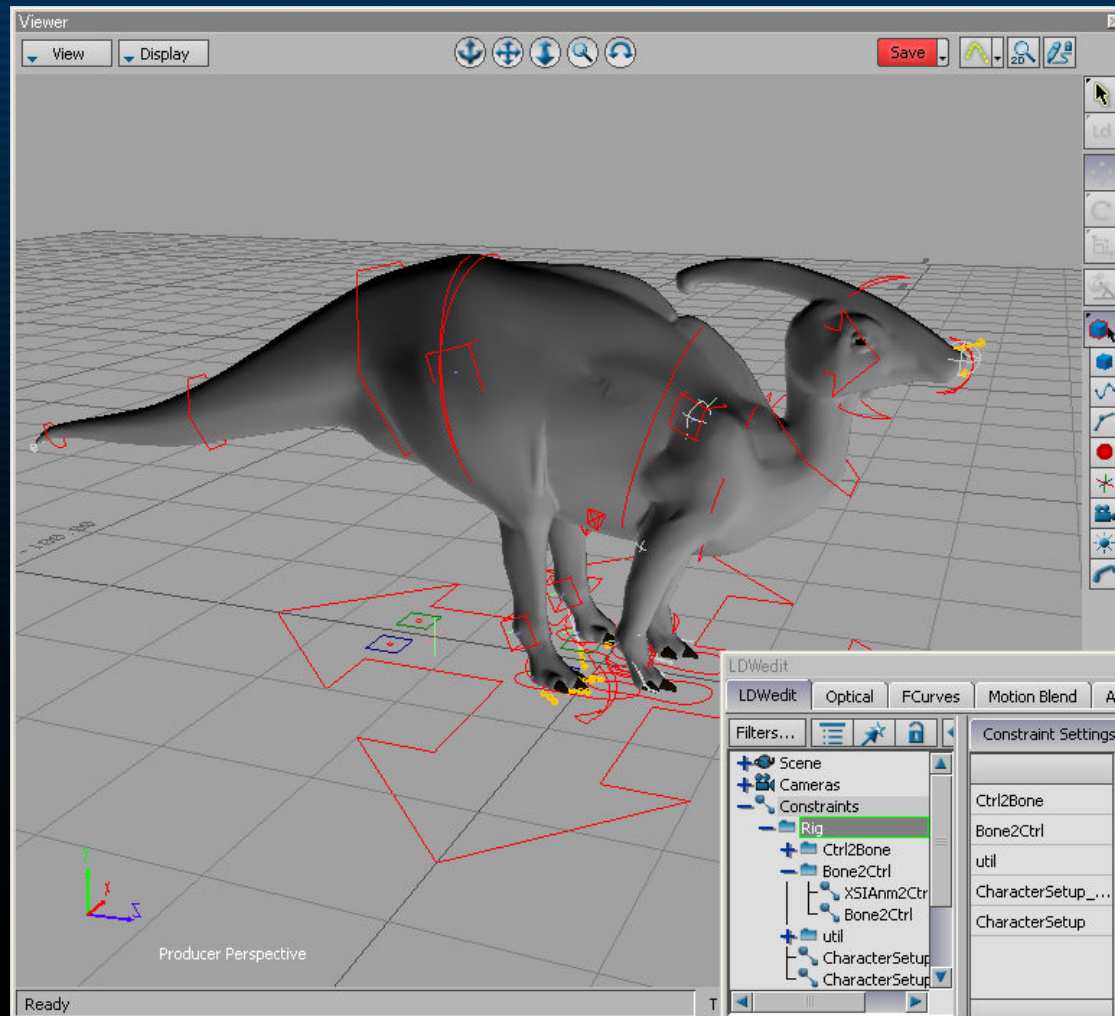
- 骨が共通なのでリギングも自動化できる
- リグを読みこんでコントローラを配置
- コントローラの位置を記録すれば完成
- キャラ毎に特殊な部分だけ追加で対応

リグに備わっている機能



- 自動リギング
- ゲームモーションからの変換
- 手つけアニメーション作成
- モーションデータ修正/ブレンド
- 骨とコントローラの相互変換

動物用リグ



機能限定版リグ

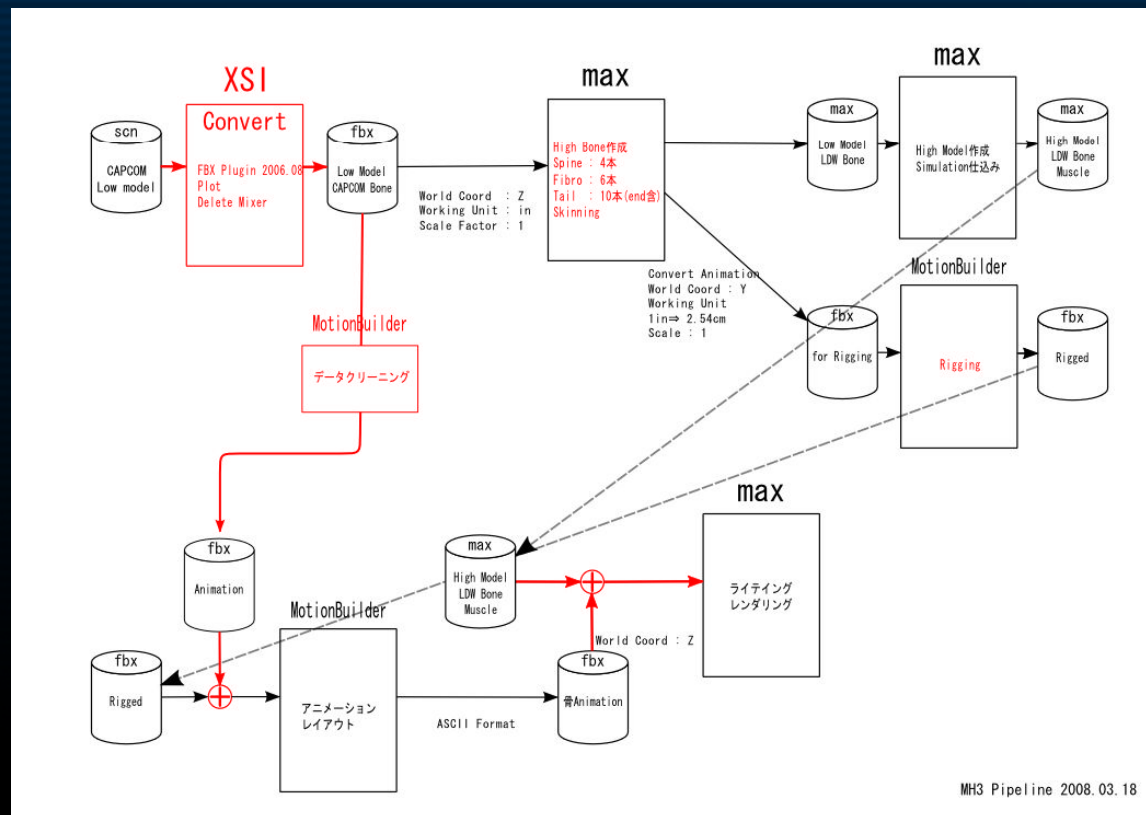
常に全ての機能が必要なわけではない
ほとんどの作業は機能限定版を使用する

- 全部入り
- データ変換用
- アニメーション作成/レイアウト用

上から下にかけて機能を削ってある。
生成は自動化してあるので、余分なコストはかからない。

処理の自動化

データの変換やセットアップなど、極力自動化した



自動化のメリット

- スタッフを単純作業から開放できる
- 計算機を増やせばリニアに速度が増加する
- ヒューマンエラーを無くすことができる
- ミスを検出しやすくなる
- 一度作ってしまえば使い回しが効く

最初の一手間が大きな余裕を生む!!

発表の流れ

1. リンクス・デジワークス紹介
2. アニメーションデータの扱い
3. R&D
4. まとめ

日本の規模に沿った形態を模索する

- ハリウッドとはスケールが違う(1/10~1/100)
- プロジェクト専任のR&Dを持つことは難しい
- 簡素でフレキシブルなものの方が運用しやすい
- プロジェクトを進めつつ必要なものを構築する



プロジェクトドリブンR&D

プロジェクトドリブンR&D

プロジェクト中に必要な機能を必要な時に提供していく

メリット

早いレスポンス

製作環境に完全に合ったツール

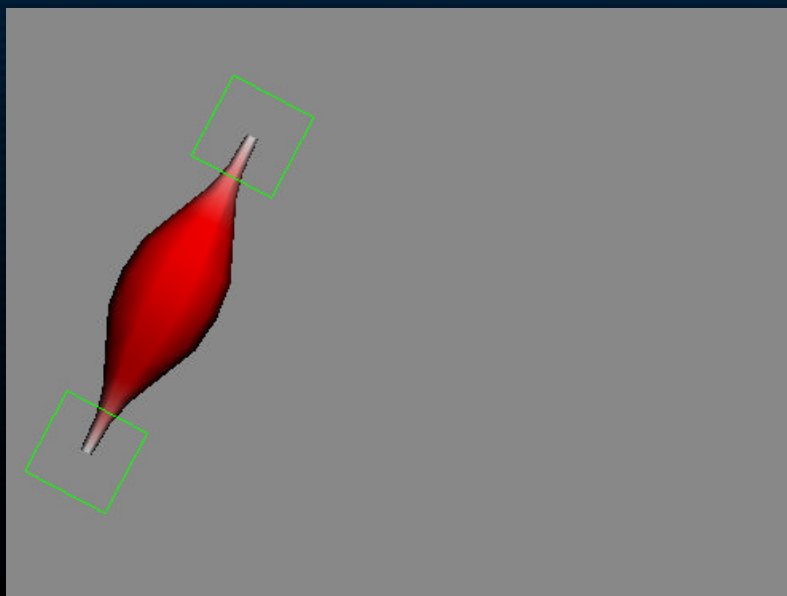
デメリット

長期的視点での開発ができなくなる

汎用性に欠けるものになりやすい

開発例(1) 筋肉揺れエンジン

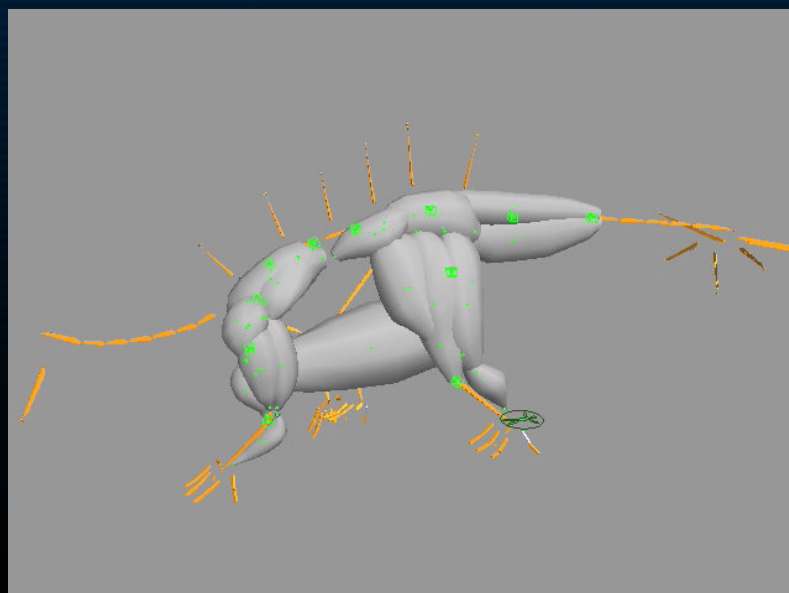
当初は既存のものでテストしていたが満足できず。
半日で開発、その後使用しながら機能向上



- 単純なバネとは違う、より「生っぽい」揺れ
- XYZそれぞれの軸に違う値を設定できる
- 順再生/逆再生対応
- 無理な動きをしても破綻しない

開発例(1) 筋肉揺れエンジン

当初は既存のものでテストしていたが満足できず。
半日で開発、その後使用しながら機能向上



- 単純なバネとは違う、より「生っぽい」揺れ
- XYZそれぞれの軸に違う値を設定できる
- 順再生/逆再生対応
- 無理な動きをしても破綻しない

開発例(2)自動化プラットフォーム

プロジェクトで作った機能を流用しつつ徐々に整備

- LDWPyLib

よく行う処理をまとめたライブラリ

- LDWPyUtil

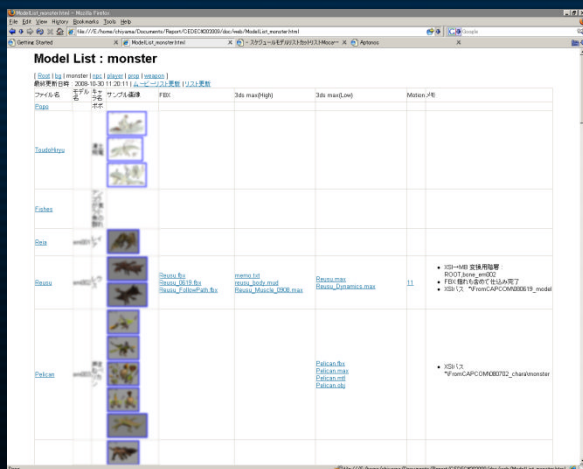
LDWPyUtilをベースにしたプラットフォーム

ツールの書き方をテンプレート化

分散処理のための機構を備えている

開発例(3)Webベースアセットマネジメント

- 共有フォルダを探索してデータをまとめる
- プロジェクトの階層や各種データのありかは、全てWebを参照すればよい
- 作成したモーションはムービー化して閲覧できるようにしてある
- SQLなどのデータベースは一切使用していない
- とにかくシンプルに! Ruby を使って数時間で作成、コードは数百行程度















開発例(3)Webベースアセットマネジメント

Model List : monster

[[Root](#) | [bg](#) | [monster](#) | [npc](#) | [player](#) | [prop](#) | [weapon](#)]

最終更新日時 : 2008-10-30 11:20:11 | [ムービーリスト更新](#) | [リスト更新](#)

ファイル名	モデル名	キャラ名	サンプル画像	FBX	3ds max(High)	3ds max(Low)	Motion	メモ
Papo		ポポ						
ToudoHiryu		轟龍	 					
Fishes		魚						
Reia		レイア						
Reusu		レウス	 	Reusu.fbx Reusu_0619.fbx Reusu_FollowPath.fbx	memo.txt reusu_body.mud Reusu_Muscle_0906.max	Reusu.max Reusu_Dynamics.max	11	<ul style="list-style-type: none"> • XSI→MB 変換用階層 : ROOT.bone_em002 • FBX 揺れも含めて仕込み完了 • XSIパス、*\FromCAPCOM\080619_model
Pelican		ペリカン	    			Pelican.fbx Pelican.max Pelican.mtl Pelican.obj		<ul style="list-style-type: none"> • XSIパス *\FromCAPCOM\080702_chara\monster

まとめ

- **最初の一手間を惜しまない**

問題の“根っこ”を抑えることが重要!!

- **少しずつでも良くしていこう!!**

キャラクタセットアップツールは約二年開発してます

- **ドキュメント重要**

未来の自分に向けてのメッセージ

- **作りっぱなしにしない**

資料をまとめるまでが仕事!という意識

Q&A

ご静聴ありがとうございました



Links
DigiWorks Inc.

*Computer Animation & Motion Capture by
Links DigiWorks Inc.*